名古屋大学（国立大学法人東海国立大学機構） ～医学 部附属病院支援事業～

病院長メッセージ

名古屋大学医学部附属病院長
小寺泰弘

名古屋大学医学部附属病院は、1871年公立の仮病院開設より始まり、その後幾多の変遷を経て、1947年から名古屋大学医学部附属病院として、地域医療、広域医療の両面から活動を続けております。また、近年はがん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、臨床研究中核病院として認定され、中部地区のみならず、日本国内外からの患者さんを受け入れています。さらに、先導的な研究を実施し、新規医療技術の開発に貢献するとともに、学術研究活動と自発性を重視しつつ、次世代の「医療」を牽引する能力を有し、豊かな学識・専門性と広い国際的な視野を併せもった医療者を育成することにも注力しております。
2004年の国立大学法人化以降、国からの運営費交付金が年々減少しているほか、社会保障費の削減等により、大学病院をめぐる財政状況はますます厳しくなっておりますが、今後とも、高度かつ最先端の医療技術の開発や質の高い医療の提供、優れた医療人の養成、地域医療への積極的な貢献など、国立大学病院の使命を積極的に果たしていくべく、必要な予算の確保・充実に努めてまいる所存です。
「医学部附属病院支援事業」では、高度かつ最先端の医療技術の開発や患者さんへの質の高い医療の提供、優れた医療人の養成、地域医療への積極的な貢献などを行うために、皆様方からのご寄附をお願いしております。いただきましたご寄附は、充実した医療サービス推進の活動等を図るために使用いたします。
この趣旨をご理解の上、ご賛同いただき格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部附属病院支援事業

ご寄附は名古屋大学医学部附属病院が行う下記事業の充実に活用します。

①施設・機器等整備事業
②患者サービス事業
③臨床研究推進事業
④その他の事業

ご寄附いただいた場合

◆寄附金は寄附金控除の対象となります。

・ご入金後、寄附金の領収書を郵送します。
寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に寄附金領収書を添付してください。

◆活動内容を報告します。

・活動報告（会計報告）をお送りします。

◆その他

・銘板の掲示
個人で20万円以上（累計も含みます。）のご寄附をいただいた場合、寄附者様のご意向を確認のうえ、ご芳名を銘板に刻み、医学部附属病院の建物内に掲示します。
・お名前の公表
個人で20万円以上（累計も含みます。）のご寄附をいただいた場合、寄附者様のご意向を確認のうえ、名古屋大学基金の広報誌等にご芳名を掲載します

団体連絡先
名古屋大学医学部・医学系研究科（病院支援事業事務局）
名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL:052-744-2775　FAX:052-744-2785
URL:https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/

ご支援でできること

世界水準の医療安全のもと、診療・研究を更なる高次元へ

国立大学病院で初めて医療の質と患者安全の国際的な認証評価機関であるJCIの認証を取得した名古屋大学医学部附属病院。
今後も地域の皆様へ安全・安心な医療を提供すると同時に、さらなる研究力向上にも取り組み、日本の医療を開拓します。

名古屋大学医学部附属病院

今後の目標

●ロボット支援手術システム等の最新鋭の設備を拡充し、高度かつ最先端の医療を皆さまに提供していきます。
●患者さんに安心して医療を受けていただけるよう、各種サービス向上に努めます。
●革新的医療技術創出拠点として、最先端臨床研究を推進します。

ロボット支援手術システム
（ダ・ヴィンチXi）

各事業の内容、寄附金の使途等

①施設・機器等整備事業

施設・機械等の整備を通じて高度医療の推進と診療環境の充実を図ります。
近年では、消化器系の検査・治療に用いる内視鏡用スコープの老朽化が進んでいたため、基金財源により最新鋭の設備に更新することが出来ました。
このほか、新型コロナウイルス感染症対策の機器購入にも役立てております。

上部消化管汎用ビデオスコープ

②患者サービス事業

最適な医療を提供するとともに、診療体制の充実や患者さんを対象としたアメニティーの向上を推進します。
近年では、入院患者に給食を配膳する際に使用する運搬用カートの老朽化が進んでいたため、基金財源により更新することで患者サービスの向上が実現しました。

温冷配膳車デリカート

③臨床研究推進事業

臨床研究奨励制度（仮称）の創設等、臨床研究への助成を通じて、先進的な医療技術開発と研究の振興を図ります。

④その他の事業

その他、医学部附属病院における事業支援を行います。